

ドイツアート Bar Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、Bar のようなくつろいだ雰囲気でアートを語り合うイベントシリーズです。今回のテーマは、『フリーはつらいか——表現者の様々な生き方』。

文化機関ではない "独立系" の文化シーンは、多彩でクリエイティブな可能性に満ち、文化の多様性や、街・国のイメージアップ、ひいては経済面にも大きな貢献を果たしています。とはいえ、個人事業主である芸術家や彼らの制作拠点は、経済リスクにさらされやすく、公的・民間支援を必要とすることが多いのも事実です。

今年 4 月中旬～7 月中旬までヴィラ鴨川滞在中のドイツ人芸術家 5 人が、日本を代表する現代美術家の椿 昇氏と、近年目覚しい活動を展開する劇作家・演出家あごうさとし氏をゲストに迎え、マーケットの仕組みや公的・私的支援の可能性、文化政策の影響など、いわゆる "独立系の表現者" を取り巻く世界について話し合います。

座談会の後は、館内のドイツカフェ「カフェ・ミュラー」にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。



**スザンナ・ヘアトリッヒ
Susanna Hertrich (現代美術家)**

1973 年生まれ。デュッセルドルフとロンドンでデザインを学んだ後、デザイン研究、メディアアート、科学技術の境界で活動。時間をテーマにした作品「クロノ・シュレッダー」で国際的に大きな注目を集めた。バー・ゼル造形芸術大学研究員。2014 年 10 月～15 年 3 月末まで千葉大学特任助教。京都滞在中は、のぞきからくり等、日本の歴史的な視覚装置や錯覚装置を調査し、地域固有の記憶と関連付けた作品を創る予定。公式サイト www.susannahertrich.com



**椿 昇
Noboru Tsubaki (現代美術家)**

現代美術家、京都造形芸術大学教授／美術工芸学科長。1989 年「アゲインスト・ネーチャー展」。1993 年ベニスピエンナーレ・アベルト。2001 年横浜トリエンナーレ。2003 年水戸芸術館「国連少年展」。2009 年京都国立近代美術館「GOLD/WHITE/BLACK」展。2011 年妙心寺退蔵院障壁画プロジェクトディレクター。瀬戸内トリエンナーレ 2013、小豆島醤の郷＋坂手港エアディレクター。



**アンティエ・テプファー
Antje Töpfer (人形劇作家)**

1978 年生まれ。シユトウツガルトで人形制作を学んだ後、同市を拠点に人形制作や舞台装置の製作を行う。人形劇での現代の表現のあり方や、舞台上での人間と物体の一体化に関心を持ち、作品ではそれらを力強いヴィジュアル言語で表現。様々な舞台芸術や美術分野とのコラボを活発に行い、人形劇、インスタレーション、パフォーマンス等をドイツ国内外で発表。京都滞在中は、折り紙芸術の多彩なかたちが舞台作品となりうるかを考察し、自身の人形劇に活かす予定。



**あごうさとし
Satoshi Ago (劇作家、演出家、俳優、アトリエ劇研ディレクター)**

1976 年生まれ。「複製技術の演劇」を主題にデジタルデバイスや特殊メイクを使用した演劇作品を制作。2014-2015 文化庁新進芸術家海外研修制度研修員として 3 ヶ月パリに滞在。代表作に「total eclipse」(横浜美術館・国立国際美術館 2011)、「複製技術の演劇 -パーソナージュⅢ-」(こまばアゴラ劇場・enoco・アトリエ劇研 2013-2014) 等。2010 年度京都市芸術文化特別制度奨励者。2013-2014 公益財団セゾン文化財団ジュニア・フェロー。神戸芸術工科大学非常勤講師。公式サイト www.agosatoshi.com



**フィリップ・ヴィトマン
Philip Widmann (映画製作者)**

1980 年生まれ。ハンブルクで文化人類学やドキュメンタリー映像などを学んだ後、ベルリンを拠点に活動。2009 年より映像実験グループ「Labor Berlin」メンバー。これまで多くの国際フェスティバルで作品が上映された。京都滞在中は、哲学者ハイデッガーのテキストを起点に、日本とドイツや、言語へ翻訳～理解の相関関係、風景と人間と科学技術の関係等に実験的に取り組む映像作品を製作する予定。
公式サイト <http://workscited.de>



**小崎 哲哉
Tetsuya Ozaki (司会、構成)**

1955 年東京生まれ。ウェブマガジン『REALTOKYO』『REALKYOTO』発行人兼編集長。CD-ROM ブック『デジタル歌舞伎エンサイクロペディア』、写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ 2013 のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。2014 年冬、『続・百年の愚行』を刊行。



イリス・ドレーゲカンプとトーマス・ヴェーバーは、京都滞在中、水琴窟を起点に言葉や音楽、サウンドアート、即興などを結びつけたマルチメディア作品を共同製作する予定。

**イリス・ドレーゲカンプ
Iris Drögekamp (ラジオドラマ演出家)** **トーマス・ヴェーバー
Thomas Weber (音楽家)**

1967 年生まれ。ハンブルクでドイツ文学、哲学、歴史を学んだ後、ラジオドラマ演出家としてバーテン=バーテンとハンブルクを拠点に活動。様々な大学でラジオドラマやデジタルメディア等も教えていた。CIVIS ラジオ賞、独仏ジャーナリスト賞などを受賞。

1969 年生まれ。カールスルーエを拠点に活動。アコースティック音楽や電子音楽を背景にした作曲や即興、プロデュースを行うほか、ラジオ作品や映画音楽も作曲。1996 年より音楽プロジェクト「Kammerflimmer Kollektief」を主宰し、アルバムを発表。

Photo: Iris Drögekamp

交通のご案内
京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩 8 分
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩 6 分



主催・お問い合わせ
Goethe-Institut Villa Kamogawa
京都市左京区吉田河原町 19-3
(川端通り荒神橋上る)
TEL: 075-761-2188 (内線 31#)
info@villa-kamogawa.goethe.org
www.goethe.de/villa-kamogawa



館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などを用意して、皆様のお越しをお待ちしています。

